

団地のつながりを取り戻す連携プロジェクト

「桃陵 HANDs」

活動地域: 伏見区

活動時期: 平成 28 年 8 月～

大学・団体名: 龍谷大学政策学部 Ryu-SEI GAP 学生団体はうすまいる

団体概要と活動紹介

私たちが活動している桃陵団地は、住民の減少・高齢化により、住民同士の繋がりが希薄化し、孤独死が大きな問題となっていた。また、そのことに危機感を抱く高齢者住民もいた。そこで、住民同士の「つながり」を形成し、お互いがお互いを気にしあえる「ほっとけない関係づくり」を目標に様々な活動を行っている。

主な活動は以下の3つである。

桃陵 HANDs



最近会っていなかった人と再会できる場、新しい知り合いを作る場として二カ月に一度開催。

カフェスペース、野菜市、バザー、子どもブースなどを設置し住民の方と協力しながら企画・運営を行っている。

夏はスイカ割り、秋はハロウィン、冬は住民の方お手製の豚汁が振る舞われるなど季節に合わせた催しを行っている。平均来客数は60人ほどで、これまでに7回開催している。次回第8回は1月開催予定。

連携団体

①桃陵サロン運営有志グループ

桃陵サロンの自主運営と桃陵 HANDs の共同開催

②南浜学区社会福祉協議会

桃陵 HANDs の共同開催

③桃陵連合自治会

桃陵 HANDs の広報協力・広報物の掲載協力

④京都市伏見区いきいき市民活動センター

企画相談・アドバイス

活動の工夫点

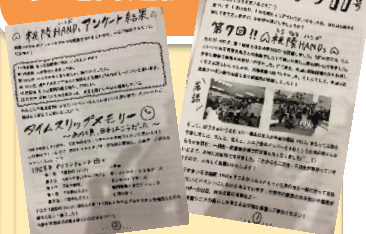
私たちの活動は学生が主体となって活動するだけでなく、住民の方と協力して取り組む、将来的には住民が主体となって取り組む活動になることを目標としている。そのため、桃陵 HANDs の企画をする際は、必ず桃陵シニアの暮らしを考える会で住民の方と一緒に決めるようにしている。まずは「桃陵 HANDs に客として参加する」「バザーに商品を持ってくる」「当日野菜の販売の手伝いをしてもらう」「前日準備に参加してもらう」などのように住民と一緒に活動を考えて行く事を心がけている。

桃陵シニアの暮らしを考える会



住民の方の声を直接聞くことができる場として、毎月第3土曜日に開催。桃陵 HANDs の催しを考えたり、生活の中での困りごとを聞いたりしている。ここで出た意見が私たちの活動のヒントになることも多い。

団地内通信



はうすまいるの活動紹介や生活お役立ち情報などを掲載した機関誌「団地だより」を月に一度全戸配布している。

また住民の方と顔を合わせる機会を増やすためポスティングも自分たちで行っている。

これからの課題

私たちが団地に関わり始めた2年前と比べ徐々に住民の方の高齢化が目立つようになってきた。少し前まで、積極的に私たちの活動を支えてくれた住民の方も徐々に家に籠もりがちになった。

現在、中心となってシニアの暮らしを考える会に参加して、共に活動をしている住民の方は70代～80代が主である。そのため今後は新たな協力者として少し下の60代ぐらいの世代の方も活動に参加してもらえるような仕掛けを作る必要があると感じている。

ブログ→<https://www.ryu-sei-gap.jp/>

Twitter→@housmile5

